

IoT新時代の未来づくり検討委員会 人づくりWG 高齢者SWG

高齢者サブワーキンググループ 主な論点等(案)

平成30年1月18日
事務局

I 総論

(1) 高齢者によるICT利活用の意義

- 人生100年時代が想定される中、高齢者にとって、ICT利活用は社会との接点（つながり）、生きがい、豊かさの獲得等のための重要な手段。
- 医学的には高齢者の加齢によるモチベーションの低下や、虚弱化（フレイル）の防止のためにもICT利活用は有効（英国の研究調査によれば、ICTを利活用しているシニアの方が健康寿命が長いとの結果あり）。
- 将来のIoT、AI、ネットにつながるロボット等の進展を見据え、高齢者がICTを利活用することが有用な武器となることを今からPRしていくことが必要。

(2) 高齢者に対するICT利活用支援の環境整備のあり方

- 高齢者に対するICT利活用の支援に当たっては、高齢者の多くはICT用語がわからず、ICT関連機器に対しては不安、不便という感覚となっていることから、ゲーム感覚を取り入れる等、安心して、楽しく、気軽に学べるようにすべき。
- 支援対象としては、今後、独居世帯の増加も想定される中、いわゆるアクティブシニアにとどまらず、要介護者をはじめ、幅広く支援できるような仕組みを構築すべき。
- IoT、AI等の進展に伴い、ICT機器等の変化（機種変更やアプリのバージョンアップ）は更に速くなるため、高齢者が取り残されないよう、個々人の理解状況に応じ、継続的なフォローを行う等、きめ細かな対応が必要。
- IoT、AI等を活用し、高齢者の認知機能の低下等の個々人の状況に合わせた対応が可能となることから、関連の技術開発を更に強化するとともに、その普及啓発も推進すべき。
- 支援対象を高齢者に限定するのではなく、子供や社会人等を含めた幅広い年代層を巻き込んだ取組も必要（全世代間の学びの場を通じ、地域コミュニティの再生や高齢者の知見等の承継にもつながる）。

Ⅱ 各 論

(1) 高齢者がICT利活用を学ぶための環境整備

- 高齢者がICT利活用を学ぶに当たっては、単に技術的な要素だけではなく、地理的に近い場所（自宅の徒歩圏内）で、心理的に身近な人（近所に住む人、同世代等）から学べる等、人的な面での配慮が必要。
- IoT、AI等の進展に伴うICT機器等の変化に高齢者が取り残されないよう、教室やセミナー等の単発の開催ではなく、いつでも復習したり、質問したりできるよう、継続した支援を可能とする仕組みとすることが必要（例えば、地域におけるICTの「かけこみ寺」のようなものを整備していくことが重要）。
- 現在、携帯キャリアやベンダー、NPO法人、自治体の老年大学（鯖江市の高年大学など）等によるスマホ教室等の取組も行われており、これらの活用（各々の取組のネットワーク化）も一つの手段として考えられる。一方、大都市部などへの地域的な偏在や、人材確保や採算性等の課題もあり、その解決策も併せて検討が必要。
- 高齢者が安心して、楽しく、気軽に学べるよう、趣味や社会参画等の別の要素を交えた学びの場とするほか、自治体、地域コミュニティ、郵便局、図書館などの公共施設などと連携して取り組むことも有効。
- ICT機器等の簡単な操作であれば、高齢者が日常生活でなじんでいるテレビを活用し、ネット経由で質問等を行えるような環境を整備することも一案。

(2) 高齢者の日常生活等を支援するための技術開発（ウェアラブル端末等）

- IoT、AI等の進展はこれまで以上にリアルタイムで、継続的に、様々なデータを収集・活用できるようになることから、高齢者の認知機能の低下等、個々の高齢者の状況にきめ細かく対応するためのICT機器として、ウェアラブル端末や支援ロボット等の開発を更に強化すべき。
- ウェアラブル端末等により収集される様々なデータについて、個人情報保護やセキュリティの確保にも配慮しつつ、円滑に活用できるための仕組みの在り方を検討すべき。

- 高齢者等を介護する側の負担を軽減するための支援技術についてもIoT、AI等を活用した開発の強化が必要。併せて、これらの技術の普及促進を図る観点から、操作の簡素化等、人的負担の軽減にも配慮した取組が必要。
- 世界に先駆けて超高齢社会になっていく我が国の強みとして、高齢者の日常生活等を支援するためのICT関連技術の開発に当たっては、国際的な標準化に積極的に取り組むべき。
- IoT、AI等の技術開発を推進する一方、高齢者を含む利用者のセキュリティの確保のほか、AI等の進展に伴う人間とAIとの関係（倫理観など）について研究、議論を深めるとともに、利用者の意識の啓発も必要。

(3) 高齢者が保有する技術・知識等の承継

- 高齢者が保有する技術や知識等は伝統や文化として次世代に承継すべき重要な資産であり、IoT、AI等を活用し、ベテラン技術者や退職者などの持つ技術や知識（匠の技）をデータとして保存し、承継する取組を推進すべき。
- 特に、高齢者が保有する技術・知識等は、これからのAI関連の製品・サービスの開発にとってイノベーションを生み出す源泉として期待できるほか、地域の中小企業の支援としても有用。

(4) 高齢者によるICT利活用の支援と併せた地域コミュニティの再生

- 人生100年時代における高齢者の再活躍や、社会との接点（つながり）の確保等の観点から、中野区の三世代生涯大学構想のように、高齢者によるICT利活用の支援をはじめ、様々な世代の人が交流し、学び合う場を、地域コミュニティの再生にもつながるものとして形成していくことが必要。
- 特に、これからの子供たち等の教育として注目されているプログラミング教育など、世代間で教え合うことにより高齢者のセカンドキャリアとしての再活躍のためのスキルにもつながるほか、高齢者の知識や経験の承継の場としても有用。